

令和6年度学校評価の報告

学校教育法第42条、第43条および第133条並びに学校教育法施行規則第66条、第68条及び第189条に規定される学校評価を実施した。評価は、東濃看護専門学校の学校評価の方針（平成30年3月）に従い、自己評価、自己点検、個別行事総括3構成で実施した。

【学校評価の目的】

学校評価は、教育活動、教育環境、学校経営の課題を発見し、その解決を目的としている。このため、評価行為は、教育活動、教育環境、学校経営の課題を発見するために実施する。評価行為によって発見された課題は、解決方法を検討し、次の機会には実行し、その結果を検証することとしており、評価から検証までを一連の過程として実施するものである。

<自己評価>

評価項目ごとに、学校長以下10人の職員のうちから関係職員を選び評価者とした。評価項目の達成状況は、達成（評価項目の求めるレベルを達成している、現在の達成度を維持する）、取り組み中（課題の解決に取り組んでいる、達成のレベルに到達していない）、不十分（取り組みが不十分、未着手）の3段階で評価した。

また、評価項目の適・否については、評価項目が適切であるかを適（適切な評価項目）、否（不適切、不要、評価不能、将来に亘って達成が困難な評価項目）の2段階で評価した。

1 評価の結果

1) 学校評価自己評価表（評価項目の達成状況）

項目	延評価者数	延評価者の内訳		評価件数分布（構成比）		
		評価件数	無回答	達成	取組中	不十分
1 教育理念・目的・目標	40	40	0	100%	0%	0%
2 カリキュラム	49	49	0	100%	0%	0%
3 授業課程	77	77	0	98.7%	1.3%	0%
4 実習指導体制	77	77	0	94.8%	5.2%	0%
5 学校組織・運営	157	157	0	93%	5.7%	1.3%
6 教育環境	80	80	0	100%	0%	0%
7 学修・進路	35	35	0	100%	0%	0%
8 学生生活への支援	50	50	0	94%	4%	2%
9 地域との連携	20	20	0	85%	10%	5%
合計	585	585	0	96.2%	3.1%	0.7%

※延評価者数とは、評価項目を担当した職員の延数を示す。

※評価件数分布は、評価件数に対する各評価の構成比を示す。

- ・全9項目の達成の平均は96.2%で昨年より3.8ポイント上昇した。昨年より評価が上がった項目は6項目、下がった項目はなしであった。
- ・90%以上の達成は8項目で、うち100%達成は4項目あり、カリキュラム、教育環境等について高い評価となった。
- ・最も低かった項目は「9 地域との連携」で達成は85%で昨年と同じ結果となった。特に「教育活動を通して地域社会への貢献を積極的に行っている」が80%で昨年度より低い評価となった。
- ・「5 学校組織・運営」は達成93%であったが、教員と事務との連携は50%、職務遂行状況に関わる情報伝達、共有は80%と低い評価となった。学校運営を継続しながら閉校作業を同時進行していく状況で、職員間の円滑な情報共有、伝達に欠けることが見受けられた。

2) 学校評価自己評価表 (項目の適否)

項 目	延評価者数	延評価者の内訳		評価件数分布 (構成比)	
		評価件数	無回答	適	否
1 教育理念・目的・目標	40	40	0	100%	0%
2 カリキュラム	49	49	0	100%	0%
3 授業課程	77	77	0	100%	0%
4 実習指導体制	77	77	0	93.5%	6.5%
5 学校組織・運営	157	157	0	100%	0%
6 教育環境	80	80	0	98.8%	1.2%
7 学修・進路	35	35	0	100%	0%
8 学生生活への支援	50	50	0	100%	0%
9 地域との連携	20	20	0	100%	0%
合 計	585	585	0	99%	1%

- ・7項目について全評価者が「適」との回答であった。
- ・実習指導体制及び教育環境の項目で6件の「否」があった。すべて実習施設に関する項目で実習施設側の取組を評価する内容になっているため、学校評価の評価項目としては適切でないとの回答があった。

3) コメント

コメント数は14件。コメントが記載された項目は達成評価について10件で、不十分の評価に付されたコメントは4件あった。項目適否については4件あった。

(次頁コメント一覧参照)

【コメント一覧】

達成状況

大項目		達成評価	コメント
中項目			
評価項目			
4 実習指導体制			
(1) 実習施設の選択と整備			
3) 実習施設は指導体制を整備している (実習指導者講習会の受講、指導者数の充実)		取組中	整備されていない部署もある
(3) 実習指導者と教員の協同体制			
2) 実習指導者は実習計画をもとに、指導計画を立案・実施・評価している		取組中	立案されていない施設もある
5 学校組織・運営			
(2) 組織体制			
2) 教員組織と事務組織は連携がとれている		達成	概ね達成できたと思うが、コミュニケーション不足にて共通認識できていない点もあった
		取組中	決まったことが知らない間に変わっていて困惑した
		不十分	閉校に伴う事務について、教務とじむとの意思統一が図れず、連携できないことがあった
(3) 職務分掌			
2) 職務遂行状況に関わる情報を伝達、共有している		達成	概ね達成できたと思うが、コミュニケーション不足にて共通認識できていない点もあった
		取組中	教職員全体で情報を共有していないときがある
(4) 財務			
2) 学校の運営に必要な経費を精査し、予算編成に反映している		不十分	予算編成時に想定していない事業があり、予算不足が生じた
8 学生生活への支援			
(2) 自主活動			
1) 課外活動、ボランティアの支援体制がある		不十分	全体として、課外活動・ボランティアへの支援体制の必要性が意識されていないと感じる
9 地域との連携			
(1) 地域連携			
1) 教育活動を通して地域社会への貢献を積極的に行なっている		不十分	地域社会への貢献は今年度は行われていない

評価項目

大項目		項目適否	コメント	
中項目				
評価項目				
4 実習指導体制				
(1) 実習施設の選択と整備				
3) 実習施設は指導体制を整備している (実習指導者講習会の受講、指導者数の充実)		否	・学校評価は、自校の組織運営の現状を評価することが目的なので、他施設の評価をすることが不適切である ・他施設の実践・達成度を評価する内容や表現となっているため、評価項目として適切ではない。実習施設に働きかけている内容・表現とし、自分たちの行動を評価すべき	
(3) 実習指導者と教員の協同体制				
2) 実習指導者は実習計画をもとに、指導計画を立案・実施・評価している		否		
3) 実習指導者と教員は、ケアを受ける対象者の権利を尊重する考え方に基いて、計画的に学生を指導している		否		
6 教育環境				
(2) 実習施設				
2) 実習施設は指定規則・ガイドラインに定められた施設整備、実習指導体制をもっている		否	大項目（実習指導体制）と重複する内容あり	

＜自己点検＞

評価は、点検項目ごとに、その項目に精通した教職員が評価し教務主任が総括した。

評価表は、看護師養成所（2年課程）自己点検表（岐阜県、平成27年）を用い、適、否、該当なしの3段階で下記の点検項目に沿って実施評価した。

1 評価結果

各点検項目は次のように判定された。

点 検 項 目	項目数	判 定 数			判 定（ 割 合）		
		適	否	該当なし	適	否	該当なし
1 学生に関する事項	11	9	1	1	81.8%	9.1%	9.1%
2 施設設備等に関する事項	106	100	0	6	94.3%	0%	5.7%
3 教員等に関する事項	23	19	1	3	82.6%	4.3%	13.1%
4 教育に関する事項	16	16	0	0	100%	0%	0%
5 実習に関する事項	31	30	1	0	96.8%	3.2%	0%
6 変更承認及び届出その他に関する事項	3	3	0	0	100%	0%	0%
7 その他	8	8	0	0	100%	0%	0%
合 計	198	185	3	10	93.4%	1.5%	5.1%

2 否と判定した点検項目の判定理由及び改善等について

1) 評価件数

「否」と判定したものは3項目で3件あった。

2) 点検項目別判定理由及び改善等

点 検 項 目	判定理由及び改善等
1 学生に関する事項 (5) 他の分野で働く社会人に対して、その経験に配慮した入試を設けているか。	社会人入試は、2年課程であり配慮していない。
3 教員等に関する事項 (13) 実習指導教員（実習施設で学生の指導に当たる看護職員）は施設数を踏まえ適当数確保しているか。	実習指導教員は確保していない。専任教員の臨地実習指導時間は規定時間内で実施できている。
5 実習に関する事項 (6) 病院以外の実習の単位数は、在宅看護論の実習を含め指定規則に定める単位数の1割から3割程度の間で定めること。	母性看護学実習の主たる実習施設がクリニックであるため、病院以外の実習が全体の3割を超える。実習環境としては病院実習に準じて行っている。

<個別行事総括>

行事総括は、個別行事の担当者が、主要学校行事が完了する都度行った。総括の内容は、行事の概要について他、反省、問題点、要改善点、課題等を取りまとめ、職員会議、教務会議などの関連会議にて報告した。報告した学校行事は下記の通り。

1 評価の方法

- 1) 評価者 個別行事の担当者
- 2) 評価時期 主要学校行事が完了する都度
- 3) 総括の内容 行事の概要・評価のほか、反省、問題点、要改善点、課題等を記載している。
- 4) 総括の報告 担当者が職員会議にて報告した。

2 総括を作成した個別行事

- 1) 消防訓練
 - (1) 期日 令和6年5月9日
 - (2) 総括(別紙) 令和6年度 消防訓練総括
 - (3) 報告 6月職員会議
- 2) 教育研修
 - (1) 期日 令和6年5月9日
 - (2) 総括(別紙) 令和6年度 教育研修総括
 - (3) 報告 6月職員会議
- 3) 同窓会(第1回)
 - (1) 期日 令和6年5月25日
 - (2) 総括(別紙) 令和6年度 同窓会(第1回) 総括
 - (3) 報告 6月職員会議
- 4) 同窓会(第2回)
 - (1) 期日 令和6年10月26日
 - (2) 総括(別紙) 令和6年度 同窓会(第2回) 総括
 - (3) 報告 12月職員会議

<課題の解決>

・評価項目で「不十分」「否」、個別行事総括で「問題点・課題」とした事項は、教務会議または職員会議で課題を整理し、課題解決策及び次年度課題への取り組みについて協議した。協議した結果をさらに学校評価委員会で重要な課題とそれ以外の課題に区分し、課題の改善に向け組織的に取り組んだ。